

| | | | | |
|------|---------|---|---|----|
| 現代文B | 報告課題第二回 | 年 | 組 | 氏名 |
| 解説 | | | | |

今回の報告課題は、一味違い、短歌と俳句が問題として取り上げられています。本単元では、近現代俳句・近現代短歌を代表する六人の俳人と歌人の作品一つずつ計十一作品とそれぞれの鑑賞文で構成されています

報告課題で注意すべきは左の通りです。

穴埋め問題は、教科書を読んでいくとそれぞれの問題に、適当な文字が書かれています。隅まで読んでいきましょう。

気を付けなければならないのは、抜き出し問題と選択問題です。選択問題の中には、問五や問九のように文章の意図を問う問題があります。選択肢をよく読み、二択まで絞り込みましょう。その上で、解答を導き出します。

問三や問二十二のような抜き出し問題では、大鉄則として問題となっている文章の前後をよく読むことが重要となってきます。また接続詞をしっかりとマークし、どの文章につながっているか気にしながら読んでいくのも重要です。

さて、「折々のうた」を進めていくには、まずは、俳句とはそもそも何なのか。川柳との違いなどを復習します。

俳句と川柳の違い

〈形式的違い〉

- ・俳句には、『季語』が必用ですが、川柳では特にこだわりません。
- ・俳句には、『切れ字』が必用ですが、川柳では特にこだわりません。
- ・「けり」「や」「かな」等が切れ字。
- ・俳句は、主に『文語』表現ですが、川柳は『口語』が普通です。

〈内容的違い〉

・俳句は、主に自然を対象に詠むことが中心ですが、川柳では、人事を対象に切り取ることが中心です。俳句では、詠嘆が作句のもとになり「詠む」といいますが、川柳では、詠ずるのではなく「吐く」「ものす」などといいます。決して、詠ずるものではありません。

〈歴史的な分岐〉

俳句も川柳も、同じ俳諧の中から生まれました。しかし、俳句は、俳諧の『発句』（さいしょの一句）が独立したもので、季語、切れ字等の発句にとつての約束事そのまま引き継がれ、さらに、題材も発句としての格調が保てるものに限られます。

川柳は、俳諧の『平句』が独立して文芸となったもので、発句として必要な約束事はありません。題材の制約はなく、人事や世帯、人情までも扱われます。

俳諧（はいかい）とは、主に江戸時代に栄えた日本文学の形式、また、その作品のことです。俳諧とも表記します。正しくは俳諧の連歌あるいは俳諧連歌と呼び、正統の連歌から分岐して、遊戯性を高めた集団文芸であり、発句や連句といった形式の総称です。

これらを踏まえたうえで、取り組んでいきましょう。